

目次:

◇巻頭言	1
◇全国地域講習会	1
◇回収高度化事業	1
◇トピックス	2
◇被曝車両問題	2
◇インストラクター研修	2
◇スクラップ市況	3
◇編集後記	3

☆☆☆ 巻頭言 ☆☆☆

新車販売回復の兆し

日本自動車工業会は、約1カ月遅れて2012年の新車の国内重要が2年ぶりに増加、販売台数は4年ぶりに500万台の大台に回復する見通しと発表した。年末まで議論が続けられていた政府のエコカー補助金の復活や、減税延長などの政策が販売促進につながったこと、東日本大震災により部品が不足していた車の販売などでの復興需要も見込まれている。

中古車に関しては、昨年の震災により下取り車が不足したことで、登録台数は過去最低の水準に落ち込んでいたため、関係市場の流通も厳しくなっていた。今年は、新車購入が増えることで再販可能な下取り車が増え、中古車市場も状況改善が期待されている。

業者間流通が改善することで業界全体の回復が期待できるだろう。

伊地知 志郎

ELV機構広報部会委員

(株)オートパーツ伊地知：鹿児島

《地域団体の皆様へ》 平成23年度 使用済自動車適正処理 全国地域団体講習会 開催概要決まる

◇目的

当機構会員各社を主たる対象者に、フロン類、エアバッグ類の適正処理に関する適正処理の知見・技能の普及と習熟に資するための講習会を開催する。本講習会では、本年度の研修会を履修したjaeraインストラクターを講師に迎えて行う。講師を務めるインストラクターには、更に特別の研修を履修して頂き、その高度化に努めていただきます。

◇日程

本年は、東日本大震災の影響等により講習会開催日程が遅れているため、一部では今期中に終了が叶わないこともあるため、実施期間を3月から5月一杯までとなるよう、各団体のご協力をお願い申し上げます。

◇各地域団体の役割

インストラクターは、当該地域団体(合同開催の場合は複数の地域団体)と協議して開催日程の調整と開催場所の決定を行います。なお、ELV機構加盟の地域団体が存在しない府県においては、近隣府県の地域団体が協力して開催に努めて下さい。なお、開催予定日の約1カ月前までに、「開催計画書」を作成し、所属のブロック長ならびに機構本部までご連絡ください。各地域団体、インストラクターは、今後ELV機構本部を経由して配布される案内、指示書に基づき適切に開催準備を進めください。

◇非加盟業者の受け入れ

講習会運営上可能と判断される場合は、域内の非加盟解体業者、フロン回収業者の参加が可能となる方向で準備を進め、案内を行って下さい。解体業界全体の高度化を図ると共に、環境対応の観点からも有意義かつ機構の知名度の向上に資するものと考えられます。

◇行政への案内

講習会に関連する都道府県、政令指定都市、保健所設置市の各担当部署宛に講習会テキストを添えて開催案内を行います。なお、行政の出席連絡は、講習会主催団体担当者宛といたしますので、取りまとめ本部にご連絡ください。なお、行政から講習会で自動車リサイクル法の運用状況に関する説明をするようお願いするものです。各団体毎に関連行政とご相談ください。

◇受講料 (テキスト代+DVD代)

以下の通り受講料を定めますので、特別の事情がない限りご適用ください;

①ELV機構会員かつ 講習会主催団体会員	3,000円
②その他のELV 機構会員	4,000円
③ELV機構会員外	10,000円

※関係者各位におかれては、ELV機構より発信いたします情報類をご参考に準備をお進めいただきますようお願いいたします。(ELV機構事務局)

回収高度化事業について伊丹委員長に伺いました

～エアバッグカップリングについて～

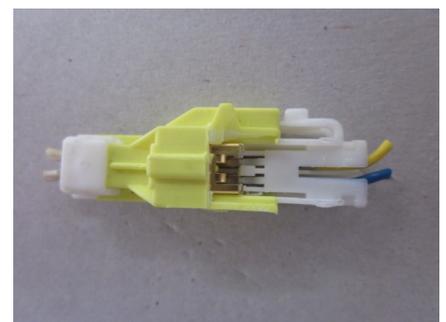
現在、ELV機構が環境省の支援を受けて進めている「回収高度化事業」は、全国3地域で実証事業が進んでいますが、同事業の推進役である、ELV機構の担当委員会委員長の伊丹伊平副代表理事に伺いました。

#####

今回の回収物品の中で1番小さいのがエアバッグカップラで、1個平均12g程度と、トンベースの商売をしている我々にとっては扱いの軽い軽さの

部品です。しかし、その端子部分は金メッキが施されており、含有量は金鉱石の何十倍だとか。全国の仲間が回収すると、1台当たり2個平均、200万台で400万個が回収できます。重量にすると48トン、内どの程度の金が回収できるか、今後の分析結果を待つこととなります。折しも金価格は史上最高値ライン、グラムあたり4,600円前後です。構えて無理をするのではなく、自然体で、自分たちの出来ることを連携して一つの力となし

て、社会貢献して行きたいものです。 □



エアバッグ
カップラー

《編集・発行人》

一般社団法人 日本ELVリサイクル機構 広報部会

〒105-0004 東京都港区新橋3丁目2番2号 一美ビル Tel: 03-3519-5181 Fax: 03-3597-5171

E-mail: jaera-office2@clock.ocn.ne.jp URL: http://www.elv.or.jp/

(株)ユーパーツ代表取締役 清水信夫さん(ELV機構理事、リ協会長)が**第一回渋沢栄一ビジネス大賞**を受賞されました。

同賞は、埼玉県が、技術開発や創業・起業へ積極的に挑戦し、今後、大きな飛躍が見込まれ、かつ、社会に役に立つ事業を営むという、渋沢栄一翁の精神を受け継ぐような県内中小企業を表彰し、広く紹介することにより、企業の成長発展を支援し、同県経済の活性化を促進することを目的としています。

今回、清水さんが大賞を受賞されたのは、

その内の「ベンチャー部門」であり、募集要項によると「新規性・独創性等にあふれたビジネスモデルに取り組む企業」を対象ととなっています。

折しも、1月31日付け日経新聞には、(株)ユーパーツが、電気自動車(EV)のバッテリー再生を開始するとの記事が掲載されました。既に行っている、ハイブリッド車(HV)やフォークリフトの電池の再生販売に加えての取り組みであり、このような新規分野への積極的な展開が認められての今回の受賞であると思われます。 □



清水信夫さん

《震災関連情報》

東日本大震災から間もなく一年が経過しようとしている。地震、津波に加えて、原発事故が今回の震災の特徴ともいえよう。地震や津波の被害からの復興も順調に進んでいるとは言難いが、原発事故で被曝した地域については正に成すすべもない状態が続いている。被曝問題の内でも、我々の業に関係する問題点を整理してみよう。

①原発事故の際に直接被曝した車両や事故後、周辺道路を走行した車両から相当高濃度の放射線が計測されている。それら被曝車両が使用済みとなった場合、主に福島県内の解体業者に引き取られることが多い。現在、同県内の解体業者が引き取る車両の内6~7割から、程度の差はあれ放射線が検出されているとも聞く。その場合、除染が必要となり、各解体業では相当程度の工数を割くことを余儀なくされる。除染作業にもかかわらず車両または取り外した部品の放射線レベルが一定以下に減らない場合、廃車ガラクタあるいは部品を解体業者自身が適正に保管しなければならないという新たな問題が生じる。

被曝車両問題

今何が起きているか！！

②また、被曝車両が被曝地域外に流出したり、県外の車両が何らかの理由で被曝するなどした場合、その車両が使用済自動車となると①と同様の問題が発生する。これまで、海外、特にロシアに出荷された中古部品、タイヤなどがロシアの税関における放射線検査で入国を拒否され、本邦に積み戻されたケースが報告されている。

③廃車ガラや鉄・非鉄素材が被曝している場合、破碎業者あるいは精錬業者が引き取りを拒否するため、それらの製品を解体業者自身が適切に保管しなければならない。

④被災地から遠く離れた地域において、オートオークションで落札した車両から高濃度の放射線が検出されたケースが認められる。意図的か否かは定かではないが、被曝した車両の名義を変更し、被災地由来でないように装ってオークションに出品するケースがそれである。入手後被曝が明らかになり、オークション会場に返品したくても引き取ってもらえないため、落札者が再びオークションに出品するなど、被曝車両が、広く全国に拡散する、いわゆる「ばば抜き」状況が発生している。

き」状況が発生している。

ここで述べた被曝車両の流通形態は典型例であり、実際には、これらが入り混じった形態になっているのが現状である。ここで一番の問題は、一口に『被曝車両』といっても、公的で明確な定義、線量基準がある訳ではないことから、意図的か否かは別にして、個々の業者が独自の判断でこのような車両を流通させているという実態があることである。

ELV機構では、これまでも事ある毎に関係省庁に対して車両における被曝線量基準の設定を求める他、被曝車両が拡散しない方策をとるよう求めてきているが現在に至るまで具体的な動きには至っていない。 □

昨年12月28日に公表された、政府の原子力災害現地対策本部による「自動車除染マニュアル」は以下URLから御覧下さい。

http://www.elv.or.jp/media/Rakude/20120207132625-iyosen_manual.pdf

リハーサル研修会と地域講習会 ～報告～

一部の地域では2月中に先行実施され、他地域では3月以降に開催されるELV機構地域講習会に先立ち、各ブロックでは、講習会で講師を務めるjaeraインストラクターのリハーサルを兼ねた特別研修会が開かれます。

トップを切ったのが中部・北陸ブロックで、去る1月11日に岐阜市内(有)近松商会においてリハーサル研修会を開催しました。対象となるインストラクター4名の内、当日参加したのは2名でしたが、業務のため参加できなかった2名については当日のビデオなどを参考に研鑽して頂くこととしました。

また、2月18日には関東3ブロックのリハーサル研修会が、10名のインストラクターと、金澤関東中、宮下関東西両ブロック長出席のもとELV機構本部事務所会議室において開催されました。金澤ブロック長の挨拶に始まり、有原インストラクターが進行役を務め、JARC(移動報告)JARP(フロン類・エアバッグ類)及びトヨタ(HVバッテリー)関連の講習内容につき、研修資

料を基に各インストラクターが分担して講義を行いました。2月18日には中部・北陸ブロックの「適正処理講習会」が岐阜市内で開催されました。今回は、通常のフロン・エアバッグ類適正処理に加え、リチウムイオンバッテリーの取り扱い、放射能汚染車両の取り扱いなどもとりあげられました。(詳細は次号以降) なお、これら以外に、東北ブロック(2/16)、九州・沖縄

ブロック(2/19)、近畿・中国・四国ブロック(2/24)がそれぞれリハーサル研修会を開催しました。 □



写真左は、機構本部で開催された研修会で挨拶する金澤ブロック長

～2月第3週（13～17日）の鉄スクラップ動向～
 韓国向け輸出価格がジリ高の動き
 現時点では上げ余地が少ない状況

韓国向けの鉄スクラップ輸出価格が、日本国内相場が底入れ反発局面となったことや為替相場が円安に振れたことから、ジリ高に推移している。韓国中堅電炉向けのH2輸出価格は1ト、FOB31,700～31,800円で決まり、目先FOB32,000円に乗せる見通しだ。

韓国大手の現代製鉄は米国玉を含めて契約残が多く、日本玉に対する引き合いは強くない。現時点で日本玉を積極的に手当てしているのは中堅電炉筋だ。直近の米No.1ヘビーの輸入成約価格が1LあたりCFR453～454ドルのため、日本玉の価格引き上げには慎重な姿勢だが、日本国内相場の動向に合わせて中堅電炉筋は値上げを受け入れている。

ただ、韓国向け輸出価格は現時点でようやくFOB32,000円が見えてきたところ。関東、関西のH2炉前実勢価格の中心値はすでに30,000～31,000円にあり、現時点では上げ余地は少ないのが実情だ。今後の動向のカギとなるのは米国玉の動向。米国玉はトルコ向けなどで5ドル前後と小幅ながらも上昇が聞かれるなど下げ止まり感が出ており、東アジア向けのオファー価格も値上がりしていると伝えられる。

関東地区 関東地区の鉄スクラップ相場は強含みの推移

関東地区の鉄スクラップ相場は強含みの推移となっている。市中スクラップの発生薄や活発な輸出約残消化の影響で、電炉筋の多くが使用量割れの

入荷状況だ。このため電炉筋は引き合いを強めざるを得ず、市場では先高を予想する声が多い。関東地区のH2炉前実勢価格は30,000～30,500円中心、高値31,000円見当。現在のH2浜値は30,000円中心となっているが、輸出価格の影響が大きく、今後の輸出商談の動向次第という状況だ。

東海地区 名古屋メーカーの半数が16日から500～1,000円再値上げ

名古屋電炉3社は16日から購入価格を500～1,000円値上げした。東海地区メーカーは一部を除き11日から500円がた値上げしているが、湾岸浜値が先行する形で上昇しており、市況はほぼ2ヵ月ぶりに反発に転じた。しかし業者ヤードの入荷は低調な状態で、前月からの下げ幅が3,000～4,000円に達した後、市況反発だけに、業者間では上げ戻し期待もあって様子見姿勢が強い。東海地区のH2炉前実勢価格は30,000～31,000円中心。

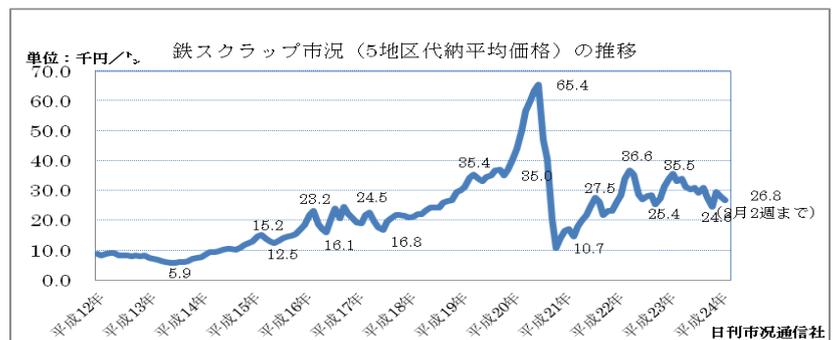
関西地区 大阪地区は騰勢止まらず、姫路地区は様子見横ばい

大阪地区の鉄スクラップ市況は騰勢が続いている16日からも岸和田製鋼が全品種とも1,000円引き上げたほか、住金スチールも全品種で500円の値上げを実施した。大阪地区のH2炉前実勢価格は30,000～31,000円。その一方で姫路地区の電炉は、先月の1月26日から揃って鉄スクラップ購入価格を500円引き下げた後は、様子見を続けている。姫路地区のH2炉前実勢価格は29,000～29,500円。

(※価格、数量等は日刊市況通信社調べ、)

2月17日の国内スクラップ炉前実勢価格

		H2		気配
関東	北関東	30,000	～ 31,000	強含み
	南関東	30,000	～ 31,000	強含み
	名古屋	30,000	～ 31,000	値上がり
関西	大阪	30,000	～ 31,000	値上がり
	姫路	29,000	～ 29,500	横ばい



編集後記

- ◇今年春の到来が遅く何時までも寒い日が続く。普通、春の訪れは三寒四温と言うが今年六寒一温のペースだとのこと。今年ほど春の訪れが待ち望まれている年はなからうと思う。
- ◇間もなく大震災から一年になろうとしている。仙台市における被災車両撤去活動は、撤去車両の大部分が解体・破碎工程へ引き渡された由。先般行われた市主催の「2012 仙台の夕べ」に招かれた栗山ELV機構代表に対して、市関係者から多大な謝辞が述べられたことが

- らも如何に重要な役割を果たしたかが伺い知れる。組織にとって結末が如何に強さをもたらすかの証左だと思う。
- ◇前号でもご紹介した、環境省の支援で機構による企業連携による回収高度化事業の取り組みが進んでいる。取り外されたエンジンCP基盤、エアバッグCP基盤、エアバッグカップラー、O₂センサー、触媒等が次第に集まってきており、分析・評価の後結果が明らかになる。楽しみなことである。
- ◇2月16日に開かれたELV機構常任役員

- 会において、平成24年度の定期社員総会の開催日を暫定的に6月15日（金）と決めました。予めご準備のほどよろしくお願ひします。
- ◇平成23年度の全国地域団体講習会が今月末より各地で開催されるのに先立ち、各ブロック毎に「リハーサル研修会」が行われている。地域講習会で講師を務めて頂くインストラクターの皆さんに、更に自信を付けスキルアップを図ってもらおうというのが狙い。参加者の皆さまお疲れ様。（編集子）